THE WOMAN'S MAGAZINE.

NOV 19 1887 no. 85

明治二十年十一月十九日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

女學雜誌

第八十五號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 85. NOVEMBER 19TH, 1887.

EDITORIAL:—Ladies Bazaar.

LEADING ARTICLES:—Destruction of Human Body by Drinking, by Mr. S. Tsuda; John Lord's Criticism on Cleopatra, by Mrs. T. Nakashima; A View on the Moral Education in the Grammar School, by Senator H. Kato.

MISCELLANIES:—Something to Do, by Mrs. Craik; Fireside Talk.

CRITICAL NOTICES:—"Seiyo-Onna-Daigaku," (Young Woman's Companion); "Shukokwa-kyoju-Shin-Ron," (Book of lesson on Handi-work).

BIOGRAPHIES:—Florence Nightingale.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

第八十五號

●社説　婦人慈善會

●論説　酒の害(津田仙)○式ロルド女皇吳氏の傳の評を讀む(中島俊)○德育に付ての一案(加藤弘之)

●叢話　何事をか爲せ(クレーク夫人)○爐邊問答○和書講義(八木兼辰)

●批評　女大學○手工科教授新論

●佳傳　ナイテンゲール

●寄書　獅子は逃げたり(司馬こう)○明治女學校獻堂式祝文(小中村淸矩其他)○結婚媒妁の統計(渡邊𦅘)

●新報　二十二件

WOMAN'S BIOGRAPHICAL DICTIONARY.

ANNA CARLOVNA, Russian Grand-duchess. B. 1718. D. 1746.

ANNA COMNENA, Byzantine Princess, Writer. B. 1083. D. 1148. Author of a history of her father, Alexis Comnenus.

ANNA IVÁNOVNA, Empress of Russia, Niece of Peter the Great. B. 1693. Reigned from 1730. D. 1740.

ANNE, Queen of England, daughter of James II. B. 1654. Reigned from 1702. D. 1714. Married to George, brother of Christian V. of Denmark.

ANNE OF AUSTRIA, Daughter of Philip III. of Spain, Queen of Louis XIII. of France. B. about 1601. D. 1666.

ANNE DE BEAUJEN, Regent of France during the minority of her brother, Charles VIII. B. about 1462. D. 1522.

ANNE BOLEYN, Second wife of Henry VIII. B. about 1507, Beheaded 1536.

ANNE OF BRITTANY, Queen of Charles VIII. of France. B. 1476. D. 1514.

ANNE OF CLEVERS, Fourth wife of Henry VIII. D. 1557.

ARBLAY, Madame d'. See D'Arblay.

ARC, Joan of. See Joan of Arc.

ARNOULD, Angélique, Abbess of Port Royal. B. 1624. D. 1684.

ARNOULD, Marie Jacqueline Angélique, Abbess of Port Royal. B. 1591. D. 1661.

ARNOULD, Sophie, French Actess. B. 1714. D. 1803.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第八十五號

明治二十年十一月十九日

●社說

○婦人慈善會

承はるに亞米利加合衆國に於ては吾人が敬愛する婦人禁酒會の姉妹達近頃ろ禁酒慈善の大市を開かれんとす然るに茲に一昨十七日より今日に至る都合三日間には府下鹿鳴館に於て東京婦人慈善會の市あり此は過る明治十七年七月我國に於て初めて古來に例し無き結搆のありてより此方今回を以て前後凡そ三回の催しあるに至れるものなり慈善惣躰の上に就いては申す迄もなく女學と云へる吾人の本領より之を見て眞に慶賀の思ひに堪へざるものなり、抑もカピウチンの僧徒は一髮一糸の遺物を利用して時機を見て說法すると云へり、吾人は敢て此宗の常態を喜ぶものにあらずと雖ども今や自らは慶賀し世人は感動する此好時機に際し婦人慈善の事について一言の勞を取るは甚だ適當の所置なるべしと思はる。

古人が女性を評するの言語甚はだ多きが中に往々之を稱して平和、慰め手、魂しひ、天の使ひなど云へるものあり嗚呼少しく實に過ぐるが如しと雖ども之れ婦女子に能く人を喜ばせ和げ生氣を吹込み娯樂高尚の天界に導くの力あるを稱する意にして必竟するに婦女子が慈善の性質に富むの德を賛へたるものなり、而して所謂る慈善の事とは啻にナサケ、メグムの義にあらず又金錢を捐てゝ人を助すけ救ふとのみの旨にあらず凡そ人に足らざる所あるを憂へ已れの餘れるを舉て之に足すは即ち悉く慈善の事たり人若し金錢に乏ぼしくして經濟上に貧しからんか已れ其有する所の貨幣を捐てゝ之を救ふは固より慈善の行なひなり然れども人もし憂に沈み病に罹りて和樂平和なくその靈魂上に於いて貧づしき所あらんか已れ其有する所の覺悟を說いて之を慰さめむは固より亦慈善の事なり又た人の文字に暗らく智識に乏ぼしくして爲めに罪を侵し德を破るものあり其人道德上に於て大に足らざる所あらんか已れ其有る所の心得を敎て之を導くは亦固より慈善の業たり慈善の方如斯く其の類多しと雖も然かれども之に要する所のものは即はち一の愛のみもし愛なくば人の貧苦を見て吾に痛痒の思ひなし人の憂欝疾苦を見て吾に搔靴の感なし人の無學文盲不德不義なるを見て柳下惠獨り清く吾に於て何の關する所あらざるが如く覺悟す此等不親切の原づく處ろ一にその愛なきに由ると云ふべき也之を以て凡ての慈善は凡ての愛に原因す愛な

つて茲に初めて慈善の行あるが故に愛心の尤も優渥なるものは即はち慈善心の尤も親切なるものあり左れば大丈夫もとより不慈善の人にあらすと雖も古來所謂る慈善の事を尤とも多く施し得たるものは即はち我が姉妹女流の社會に於てその尤も多きを見ると實に之が爲めなり。

此を以て昔しマリアが香高き油を主の御足にそゝぎたるより以來ドルカスは其衣服を以て寒むきものに着せリヂアは其家を以て使徒の病院となせり又皇女エリサベツは其年金を貧者に施し玉躰を疾苦の人の枕邊に寄せ玉ひ又羅士亞の皇后フエヲドロブナ普魯士亞の皇后クリスチヤナ佛蘭西の皇后レクジンスカの如きは或はお手元金を捐て或は寶玉を賣却して救貧の料とは爲し玉へり其他ミラミチン夫人クエートルメル夫人エリサベツスヘチング姫の如き身富貴の家に生れて自から貧賤の民を侶とし之が困苦を救ふを以て樂のしみとしたる如き或はレ、グラス夫人の慈惠院に於るフライ夫人カーペンター孃及ひサラマーテン孃の牢獄改良に於けるナイチンゲール孃ガルレツト孃の看護看病に於けるが如き何れも皆な古今の歴史上に就いて婦人慈善家の尤も著名なるものなり然れども此等の著名なる婦人には亦た無名にして著名なる無數の慈善婦人必らず多く附屬する者あるが故に古來亦た婦人の手を以て成れる慈善の協會組合甚だ多く而して此の會合に於ては各々其時代に存せる幾多の慈善婦人が皆夫々の善行を施されたるものと知るべし、例へば基督の教會には初代に女執事なるものありて終生人と婚せず專ぱら信徒を救ひ慰ることを以て其の任としたるが如きものあり、第十三世紀の比ほいに至りては彼のベキウインと云へる女子救世の一制度北方の歐洲に起り今尚ほケント、ブルーゲスの邊に其の遺制を存するが如き者あり、此と同時に當り亦彼の聖フランセスの發意に由て佛國に起りたる慈善主義の一會合ありて當時の婦人大に之に力を盡せるが如き者あり、又千六百年の初めに至りビンセントデ、ポール彼のレ、グラス夫人と共に地方慰安會其他一二の婦人慈善會を開きたるが如き者あり、千八百卅六年の比に至てはフライドナー氏夫婦の盡力によりて彼の有名なるカイセルスワルツの看病婦學校を創立するの基礎を得て之より日耳曼邦内の諸所に同樣の場所を引起し延いて其例を米國英國に迄及ぼしたる如き者あり、千八百六十一年と成てはリパプールに亦た同樣の看病婦養成所を造り之よりして數多の慈善主義の看護婦を出せるが如きものあり、凡そ此等は古へより當今

に至る間だに於て女流が大に盡力したる諸慈善會中の尤も有名なる者なり、而して今日に至ては或は戰爭を全滅して人類の幸福を維持せんと欲する万國婦人平和協會の如き者あり或は赤十字會の會員となつて一朝事あるの日戰地に出臨し硝烟彈雨の間に負傷者を看護せんとする婦人の會衆あり或は公衆の道德を高めて世上の害惡を絶たんとする婦人德育會あり或は飲酒喫烟の害を禁じて現世無數の不幸の元因を全滅せんとする萬國婦人禁酒會の如きあり或は主の道を全世界に擴ろめ主の心に適ふ敎育を萬國に布んとを欲する婦人傳道會社の如きあり而して其の尤も至れるものは牛馬が人類に酷使せらるゝを痛んで家畜使用の制限を主張する動物保護の婦人會の如きものあるを見る、凡そ一個人とし一集躰として古今の女流が慈善の事業に盡力したるは眞に著名高大の事也思ふにこれ婦人が男子に優さつて世になし得たる一種の大事業にして女職のうち其尤も淸く且つ尤も尊とむべきものとなすべし、之れを以て米國婦人禁酒會惣理フランセス、井ルラルド孃は婦人に最も能く適する事業は第一に慈善第二に新聞雜誌の記者なりと云へり蓋し能く當れるものと信ず。

女流一般の性情として斯くも慈善の事業に盡力せらるゝの實例海外に著名なりしに係はらず我國に於ては歷史上左程に有名なる婦人慈善家の存せざりしことを慨歎するもの有之たる所に彼の東京婦人慈善會なるもの出現して日本開闢以來最初の美擧を公にしたるを第一とし今や全國内の各所に於て之れに倣ふもの續々として增加するの有樣に至ると眞に慶賀すべきものと云ふべき也。但し慈善の事もとより有德高尙にして人世の尤も美なるものなりと云へども人もし之が恩を施すの方法を擇らんで能く其道を得るに非んば切角の美擧は反つて實際に不善を招き爲に慈善愛他の精神に反するの決果を惹き起すの憂有之べき也。

思ふに慈善の恩を施すに當て其道を誤まるもの固より尠なからずと雖も彼の徒らに金を惠み貧者を助くるを以て直ちに慈善の事なりと覺悟し此の惠助の所置を行はゞ慈善の主義則はち達し得たりと思考するの人を以て尤も多く此の誤謬に陷り易すきの人とする也著名なる救貧論の著者ステブン女史曾て云へらく慈善に三つの所置あり一に云く敎育二に曰く看病三に曰く救恤補助と此の分別固より不適當の箇所なきにあらずと雖ども然れども敎育を以て慈善の所置の第一に置くは先づ尤も其當を得たるものと云はざるべからず蓋し世には怠慢の爲

めに貧しきものあり不行跡の爲めに困苦するものあり其腕を揮ひ足を擧ぐるの勞を厭ふが爲めに食を人に乞ふの境涯に陷れるもの之れあり然るに其襤褸を衣て惡食饑餓するを見れば狀況まことに憫れむべく寒に凍へ暑に爛れ雨中門外に立ち雪夜檐下に息ふの有樣を見るときは惻隱の念固より止みがたしと雖も苟しくも其の元因する所ろ彼の怠慢不處存の故にありと云へば之に金を與へ物を惠むは彼をしていよ〱乞食の境涯に安んぜしむる者にして與ふる人實に之を愛するの恩人にあらず如此き慈善の處置は其實不幸にして慈善の精神を誤まり人を害すると尠なからずと云ざるを得ず故に救恤補助の方法は或場合を除くの外は人の獨立の精神を挫きて眞に他を利するの道にあらざる也。但能く愼しみて其道を得以て貧しきを恤み足らざるを補ふ事並に疾病に憂苦する所の人をば保護慰安し然らざれば乍ちまちにして死すべきものを生かし然らざれば不平不快不幸の地獄に陷るべきものを慰る事の如き則ち共に慈善の處置に相違なきものと雖ども其中に就いて尤も優れるものは蓋し敎育の一途なるべしと思はる。蓋し若人を正しきに敎導せば他日罪を侵すもの少く貧賤に苦惱するもの少なく不德不養生の元因を以て身躰を害するもの少なかるべし而して第二第三兩樣の慈善を施すべき不幸不足は則ち之が爲に大に消滅すべきが故に彼の第一種の慈善方を施すものは實に能く世上の罪惡貧苦の源を療するものと云ふべき也。然るに世の慈善家たるもの常に金を人に惠むを知る徃々看病の亦た慈善たるを知る而も敎育の最大の慈善たるを知らざるは眞に慷歎すべきとなり。

因て思に此度の婦人慈善會に於て取集められたる金圓は抑も之を何如なる途に向て使用せらるべきか一躰は最初に何々の爲めに玆に慈善市を開くべき旨を公告し初めより其主旨を明にして義捐者の志を滿足せしめ一方には人の志に背きたる方角に金を使用せざるの用心をなし一方には人の志に合ふ處に誘ふて多く義捐せしむるの勵しを與ふるを至當とするとありと雖も此回の市に於ては何ほ未だその使ひ道を一定せられずと云はゞ則ち之を尤も益多きの地に使用せらるべきとに議決するは當然の處置たらんと思考す然るに第一回第二回の義捐金は悉く之を彼東京共立病院則ち今の慈惠院に寄附し所云第二種に類するの慈善を施されたるを記臆す然れ共今回の處置は亦又之に同樣なりとも覺へず或は之を片環ものゝ敎育に施さるべきか或は之を不德者の敎育に施さるべきか又

或は之を普通一般の女子敎育に施さるべきか苟しくも若し第一種最上の用途に向つて之を使用せらるゝが如き運びと相成らば吾人は更に慶賀を重ねて道の爲に非常の喜びを爲すべきものなり。

● 論說

○酒の害（十一月三日婦人矯風會厚生館大演說）

津田仙　演述　佃龍雄　筆記

滿場の兄弟諸君今日は天皇陛下の御生誕日で御座りまして庶民の天長節を祝する所の聖日で御座います殊に天氣も朗かにて明治の太平を表するかと存じます然るに此の如き多勢の紳士淑女の前に立ちて一場の演說を爲すとは此上もなき幸ひと存じます之れに加ふるに何等の幸か亞米利加の新聞を見ると今日は婦人矯風會の祈禱會を開かれまして其副會長エフ井ルラルド孃が昨日と今日と亞米利加のシカゴ府に於て大祈禱を致して居ります今日諸君が此席にお集りになりしも必ず偶然ではありません其祈禱によりて此の如き集會のありしと私は深く感じて居ります。

併し私は四五日前より盲啞學校の爲に展覽會を開き夫れが爲に四方に奔走して居りますから演說の下調べも出來ませんけれども同問題は去る八月中に白銀頌榮女學校の招聘に應して酒の害と云ふ演說をいたしたとがあります夫れを有名なる若林玵藏君の筆記にて女學雜誌七十三號幷に七十四號に掲げてありますこれを一讀して見るに字句の間少しく誤りがありますから是れが校正を致さうと思ひますが大體に於て少しも違がありません其の誤りたるは或は私の申しそこなつたともありましよう又筆記の違ひも有らうと存じます然るに何等の幸か滿場諸君の前に於て之を質し而して其說を再び擴張するとを得るは私に於て誠に幸に誠に光榮なることゝ思ひます。

此人間と云ふものには二ツの大敵がある其の一は心に關する所の邪道であります即ち人間を惡道に導く敵です今一ツは肉躰を侵す所の病ひで御座ります此二ツが人間の敵否人間同志ではなく人間に對しての敵で御座ります此二ツの敵を豫除くは我々の最も大切の事と信じます孫子に百戰百勝は善の善なる者にあらず戰はずして人の兵を屈するは善者なりとあります私婦人矯風會の規則を能熟讀するに此二の敵を虜にする爲めに企てたるものにて戰はずして勝を得んとするの目的で御座ります假令ば惡事をなして能き辯護人を依賴して裁判所に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

勝を得たりとしても戰て然る後勝を得たのですが若し道德を修めて罪に陷るとなき樣に致したら則ち戰はずして勝を得たので御座いましよう(喝采)又病に罹りまして醫者を聘し平愈致せば其人の幸でありますが矢張戰て勝たのです今若し病の原因を知り弊風を矯め道德を修め健康を保ち國家の幸福を招きたるものは善の善なるもので戰はずして勝を得たので御座いましよう(喝采)。

今是れより本題に掲げたる酒の害に就いて演述いたします扨て人間が此の世の中に生活して居るに飲食と云ふものは甚た大切で御座いますが物を食ひ物を飲むと云ふ目的は何で御座りましよう飢を凌ぐためか肉躰を養ふためか私が思いますには食うために人間が生きて居るのではなく生きて居る爲めに食物を食ふのであらうと思います(喝采)然れば酒と云ふ者は如何なる者ぞと云ふに人間の肉躰を保つ養分は少しも無い只害を爲す所の者です(ヒヤ〳〵ノー〳〵)酒は元と麥或は米葡萄の類を以て製するのですが此葡萄も麥も米も人間に對しては能き食物です併しながら之れを酒に製して害になると云ふは如何なる次第か一方には能き食物一方には害を與ふるは如何なる譯かと云ふに私は是れより其説明を致します。

人間の物を食べて養分を取るにも大別して二通りと致します其一通りは筋肉等にある所の者即ち牛の肉或は豆腐或は鷄卵の白味チース杯で是れを含窒素物と申して皆肉や皮になります又人間の生きて居る間は身躰に熱を起さなければならぬ熱を起すと云ふは躰の中で火が燃ゆるので炭素水素を含て居る物が燃るです炭素と酸素又は水素と酸素と抱合して人躰の熱と爲るので御座ります是等の物は葛生麸油砂糖酒酢等あり譬へば牛乳を鑊れば下に沈澱したものがチース即ち肉になる者又上に浮みますのがバタ是れは體中で燃へるものです扨此人間は四分の三は燃へるものを食し四分の一は肉となるものを食するが法則です故に我々が日々食するもの丶中にも此等の原素は常に含み居るもので小麥ならは其小麥の中には燃へる元素も肉になる所の元素も含んで居るのです。

然して酒は體中に入て燃へる所の炭酸水の三素から成立て居る砂糖も酒も同じく三元素より成て居り葛も酢も同じ事です然るに人間の食物の四分の三は其炭素より成立たる物を食さなければならんですがそこで酒の害になると云ふは酒が體中に這入れば直に外の物を燃さずに自分バかり燃ゆる性質を有して居ります酒が胃中に往くと直ちに燃化して他の體中脂肪

等が燃へんとして燃ゆる能はず體中に殘つて身の害を起します必竟飲酒家に肥大の者のあるは眞に太るのではなく汚物が燃へ殘りて體格が大きくありたるのみです諸君も酒を飲で酔ふとを御承知でせう私は誠に不辨舌で御座りますから此演舌を助ける爲に聊か道具を持て來ましたから是れで説明いたします。

これは諸君油で御座います油の燃ゆる時は眞と一所に燃ゆるのですランプをお用ひになる諸君だから申さずとも御承知で御座いましよう(油紙に火を點じて實例を示す)此通り油の燃ゆる時は他のものも一所に燃ゆるです是れに反してアルコールたる者は酒の精で是れを燃やせば紙は燃へずにアルコールのみ燃へます(實例を示す)此通りアルコールの染みてある所は紙が燃ません若し人間の腹の中へ這入れば他の酸素を引いてアルコールだけ燃へます故に顔が眞赤にあつて精神を錯亂します(喝采)。

又これ爰に御座いまするは鯛です此鯛は何故腐りませんかと云ふにアルコールに漬けてあるから腐らんアルコールと云ふ者は實に恐ろしき程水素と酸素を吸ひます最初水氣が有るから腐りますが枯せば腐りはしません其如く躰中に有る水氣が悉くアルコールに吸はれるから腐敗しないのです(喝采)外部から吸ふばかりではない體中に入ても其通りどの樣な宜しいアルコールでも百分の二の水は引くとの事で御座ります斯く水を引くから酒を飲めば喉がかはいて宿酔の水が旨いと云ふは此道理で御座ります(喝采)。

且つ酒が流動して居りまするど少しも外のものを溶かすと云ふとを致しません體中の酸素を取て燃ゆるだけです水は能く流動さすると云ふ効能あれどもアルコールは此役をいたしません健康上より云へば役には立たぬもので御座ります然らば日本酒の中には何れ程位アルコールが有るかと云へば百分の十五乃至十七を含んで居ります葡萄酒は百分の十或は四十五を含んで居りますブランデー、燒酎泡盛等は三十五までのアルコールを含んで居りますシテ見れば日本酒一石の中には一斗五升乃至七升のアルコールが有るのです若し此アルコールを試に湯飲に一杯犬に飲ますればワンと云たぎり殪れてしまいます猫に少さき盃に一杯飲すれば是亦乾度殪れます未だ酒を飲みたるとあき小供に一杯のアルコールを與ふるも是れ亦た同樣に殪れて生命を保つとは出來ません(喝采)此の如き毒物であれば私共が此れを飲むと云ふは何と畏るべきではありま

せんか今若し二合の酒を飲む人が三合飲める樣になれば大層強くあつたと云が強くなつたではあい弱くあつたのです（喝采）若し毒を器物に盛つて客の膳に据へたならば此れを食する者は有りますまい酒に至つては毒と知りあがら人にも強い自分も飲むと云ふは實に疑はしきてはありませんか客に向つて最う一杯最う一杯と毒を侑むると云ふは實に酷だしきとてはありませんか（大喝采）酒を飲みますれば顏色もうるはしくあり皮膚は光澤能くなります古人も酒は百藥の長などゝ云ひますが私は泰西の諸書を研究して酒は百害の長たるを悟りました（喝采）。（未完）

○

戎ロルド女王奥氏の評を讀む（特別寄書）　中島俊

われら異敎者の中に於て交際上に最も勢力を有する婦人（譯者云例は何々館の舞踏何々閣の夜會中若し某の某微りせば宛も座中四壁を照すの銀燭を欠くもの丶如き感を與へ其應對飴よりも甘きもの丶類を言ふならん）の有樣を考ふるに殆んど己が才色を以て男子を上下するの引力を有ち巧みに人を惑溺するの手管あるのみ毫も廉恥の何物たるを知らざるが如し

又或は廉恥を破り人を惑溺するの手管を試みざるの婦人（譯者云是れ恥て爲さゞるに非ず爲さんと欲するも能はざる者あらん）あり其品行上絶て僞を僞るとあきの一點は較や喜ぶべきものと雖も其代りとして其身元來全く敎育を受けざるものあるが故に他人に對しては殆んど其爲さんとする所を知らざるものあれば交際上毫末の勢力を有する能はざるは亦止むを得ざる事どもなり

交際の上に於て此の兩の者が其勢力を有すると有せざるとの差は大に異ある所ありと雖ども要するに右兩種の婦人は齊しく世の奴隷にして終世奴隷の範圍の外を歩む能はざるものなり如何とあれば此兩の者己が利害の係る所の婚姻をも己れの好みに從ふて遂ぐる能はずして唯男子の求めと父兄の指揮とに從はざるべからず身は深窓に蟄居し目は一部の書をも繙く能はず從てその智識もその自由も共に地を拂つて無し而て終生己を支配する者より唯だ悲哀と痛苦との賜ものをのみ受けんとす亦可憐の至りあらずや

或は又財産家と呼ばるゝ豪富家が妻若くは娘孃の有樣を見るに其己が支配者たる父若しくは夫より蒙る所の抑壓暴戻にして仁愛なき點に向て敢て之を不正當の事とも感ぜず敢て之を不快とも感ぜざる代りには己が抑壓せらるゝの報酬を轉じて

己が使ふ所の婢僕の上に落し其身が之を虐使するは亦適當の事と考るもの丶如し婢僕は主用に驅馳奔走して身骨を碎かんずる多忙の際をも顧みず緩々長袖を纒ふて室内を徜徉し僕婢の過ちを見出すとの外は一日幾回も衣服を更め紅粉を塗抹する如きを以て己が業となすもの丶如し而して其更むる所の衣帶塗抹する所の紅粉は以て社會に光輝を添ゆるの優美あるにもあらず徒らに佳人の顰に傚ふて愈醜を加ふるに外ならざるなり

又僕婢をも使ふと能はざる貧家の妻若しくは娘孃は其風采少しも人を欽慕せしむるの點なく集れば漫りに爭ひ漫りに罵り其言語の短促鄙下なる人をして嘔吐せしめんとするものあり而も此の漫りに爭ひ喋々騷雜に堪へざるの吻は必要若しくは高尙なる談話中には一句をも容る丶能はざるものあり

此の如く貧賤の女は鄙しくして諛しく富貴の女は驕つて愚なるものとせバ一家の幸福快樂は何に因て得らるべきや貧賤富貴の差はさてをき都て女なるものは悉く男の奴隸なりと云ハゞ一家は何を以て組織するを得るや看よ婦人が唯に彩色の双翅を翻して芳園に狂舞を弄する如く紅粉を凝らして室内を驅馳し或は雀鴉の餌を爭ふが如く一隅に騷然たる如きものは兩なから室家の幸福を生するものにあらず看よ此等の婦人を支配する男には如何なる地位を以て婦人を待遇するや唯一の囚虜として之を見るのみ此囚虜の中にも時として婦人が反對に男子を支配するのみならず殆んど玩弄器とし見るものなきに非ず而かも此等の婦人が僅かに男子を支配するの權力は如何なる物質より成れるかと謂へば眞に最も賤むべきの原因より發するを以て一朝色衰ふるに及んでや其勢力も亦共に消散すべきなり

其他普通の婦人は宛も春寒料峭陰雨濛々として晴れざるもの丶如く爲に一家は寒く且つ塞きて少しも快活なる色を奏する事なく婦人が價値を論ずれば只だ痛苦と不幸とを容る丶一個の器物たるに過ぎず然らざれば僅かに炊婢たるの價値を有するのみ是れを以て炊婢たるの職務を除く外は一家の利害得失を見て敢て感ぜざるもの丶如し故に此教育もなき智識もなき風趣もなき女子を扶けて高尙なる地位に至らざらしむる者は全く男子の罪なりと雖とも婦人自身が此痛苦と不幸とを去て快樂の境に至らんとするの情もなく自ら奴隸を以つて適當の地位なりと安坐するに至りては亦如何ともする能はざる也」

右はジョン、ロードがクレチパッラの傳を叙たる評言中の一

節なるが之を讀むもの果して如何なる感情を起すや讀去つて文意宛も我國の狀况を寫すものに異ならざるを覺ゆるなり然れ共較や異なる所のものありクレヲパツラが時代にありては婦人は自ら以て男子の奴隷なりと考へ男子も亦た婦人を以て天性愚鈍なるものにして決じて同等の地位を有つ能はざるものありとし若し是れ等の愚なる婦人を敎育して世態の何物たるを知らしめなば唯徒らに痛苦を添ゆるのみ寧ろ敎へずして一生奴隷の位置に安んぜしむるの幸ひ多きに如かずと思考したり然るに今や我國の現狀は最早上に記したる時代を過ぎ去りて女子に充分の敎育を施し將に之に同等の地位を與へんとするに至りたり之れ大に賀すべきとの如しと雖も然れ共或は之を表面に襯して裏面に尙ほ舊衣を慕ふものあるに非ずや倘も之をして交際上の一裝束として試みんとするならば其不幸痛苦唯に婦人獨り之を感ずるのみならず男子も亦一家の快樂を望んで得ざるものとあるべし如何となればジヨンロードが云所の時代には女子を奴隷とし見るべきものに非らざるとを未だ氣附かざるの時代なり是を以て婦人も亦た其身の地位元來此の如きものを覺悟し不幸を見て不幸と感ぜず痛苦を見て痛苦と感ぜざりしを以て到底男子の待遇を滿足として敢て之を忍びたり是を以て當時の婦人より何等の不平をも聞きしとあらずと雖も今は否らずして婦人自身にも婦人は必ずしも奴隷あらず必ずしも痴愚あらず男子より相當の尊敬を受けざるべからざるの理由を承知するが故に奴隷同樣の待遇を以て非常の不滿足とすると勿論なり依てもし男子に不仁の行ひ有るか無禮の言あれば忽ち心に不快の塊を生ずるならん而して婦人が心に生ずる所の塊は都て皆な和らぎと愛とに變化して男子が身を喜ばしむるものに非さるを知れ男子は各職務相應に心を外に勞するものあり外に於て勞するの心は何物ありて之を慰むるを得るや必ず室內を温めて男子が歸來を迎ふる婦人が和らぎと愛とに因らざる可からず男子が心を慰むるものは決して婦人が不平の塊に非るあり婦人が外に現はす處の和らぎと愛は即ち男子が內に藏むる所の和きと愛との反射たるを知れ看よ基督敎を奉ずる信徒の外にして婦人が和らぎと愛とを以て室家を温むるを得る者あるか恐くは之ある尠なかるべし男子が舞踏會夜會にありて婦人を伴ふの景况を見れば以て敬し以て愛し實に間然なきものゝ如くなるにも拘はらず其室家を顧みれば韓非子が言ふ所の內有疑妻に非ずや否らざれば外か車を停るの家あるに非ずや此の二のものゝ行るゝ限り

は男子か高尙なる快樂を得んと欲するも豈得べけんや人蓋し云はん我國の婦人は歐米婦人の活潑にして愛多きものに及ばずと或は然らん然りと雖も此活潑にして愛多きものに皆何に因て來るか孟子云はずや爾に出づるものは爾に歸ると又云はずや君尤むるなかれと

○德育に付ての一案（十一月十二日大日本教育會演說）

加藤　弘之　演述　　　松川福三郎　筆記

左は中小學に於ける德育方の一案なり中小學には女子の敎師多からんことを希望するの素志と此案子弟を敎育する母氏の注意を要する所多きとに由て其筆記を茲に收む但し加藤氏當日の演說は僅々一時間に涉り兼ての草稿の三一をも述べ盡されざりし由に承はり且つ近日此意見を一書に著はし哲學書院より出版せらるべき由の直話あれバ讀者先づ之を其の序文と見て可也　編者述

私が今日の演說ハ斯に揭げてある通り德育に付ての一案といふ題でありまして未だ小學中學に在る者の敎育を改良するしかたに付てのことでありまして今日の演說ハ平生學術上に付ての演說とハ違つて諸君の贊成を得て敎育家の輿論を直して貰いたいといふ考で演說を致しまするのでありますからどうぞ諸君に於ても其お積りでお聽きなさらんことを願います偖て唯今までの不充分なる德育の樣子をお話しゝて見ますると既に諸君が御承知の通り維新の前まではハ上等社會ハ忠孝の儒敎と下等社會ハ佛敎と云ふ樣なものが道德を維持する根本の樣になつて居りまして其外に上等社會にハ武士道と云ふものが餘程武人の道德を堅固にする樣になつて居りました所が維新になつて俄かに何でも西洋でなければいかない日本の古るい事ハ總べて役に立んといふことに變つてしまつて是れ迄の事ハ皆西洋の開化の道とハ反對して害になるといふ樣な議論になつてきて儒敎といふものがまるで棄てられてしまふような有樣になり其れから廢藩となつて武士道も亡ひたそこで武士道と儒敎の二つが潰れ隨つて佛敎も倶に踏み潰されることになつてしまつた其れから維新後追々年を積むに隨ひ段々學校の制度も整つてくる樣な時分に至つて少年を維持する德が無くなつてしまつたどうも斯う云ふ有樣になつてハしかたがないといふことになつて學者の説或は役人の議論が區々に定まらんとになつてきた或は孔孟主義が宜かろう孔孟主義を道德の大本としなければならんといふ樣な説を立てる人もあり唯だ種々雜多な説が出樣になつてきたそこで段々維新の三、四年以

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

來今日まで修身の樣子を觀て居りまするど何も極ッた道德主義といふものは一ッもない或ハ此處らの學校でハ修身科にハ論語を以て敎へるといふ者もあり或ハ修身の飜譯書を以て敎ゆる者もあり或ハ支那の主義も入れ西洋の主義も入れ唯だ編者の考へで色々ゴタマゼに論語や孟子を以てきて其れを修身科に充るといふ樣なこともありどういふ道德の主義であるかといふとハ少しも極らん其れのみでなく又數年前までの所を見ると小學校で唯だ論語や孟子の主義を委しく說いてこれを專らとして敎へた學校も大層ある樣でありますそういふとハ文部省の世話や或ハ學校や修身家と云ふものハ重もに宗旨の事柄を敎へなければならんと云ふことに氣が付いて事をする樣になつた私が既でに大學に居つた時に此の豫備門が建ち中學校に當たる樣な學校でどうしたら宜からうと段々考へるとどうも世間でする樣な精神の主義の定まらん樣なとでは役に立つまいと考たが考へて見てもしようがない修身ハ宗敎から出て來た修身でなければ其功が無からうと考へがあつたけれども其の時分に宗旨を以てきて道德を說くといふ譯にも行かない勢いでありましてしかたがないから先づどうしたら宜らうと考へて先づ其の唯だ當り前の外に學科を敎しゆる樣にしそうして其敎師ハ若い先生が敎しへては猶ほ更ら効能がないから修身科ハ年を取つた學識もある先生に敎しへて貰らつたら少しハ宜からう又其の敎へ方ハ唯た事柄を敎しへる計りでなく先生の德望に依つて薫陶して貰らはなければいかんから年を取つた學識ある先生にやつて貰らはんと岡松秋月と云ふ二人のものに賴んで敎しへて貰う樣にして其の時分にそういふ先生に賴む時は論語ををしへて貰つたら宜ろう併し論語ハ修身の爲めに書いたのでないから一身を治むる外に治國の事柄も述べてあるから小學生徒に宜しくないそんな事を聞けば氣分が大きくなつて害になる故にそんな事は省いて專ら修身に關する所を賴んで其れから文字などのことは次にして其の事柄を講釋して貰いたい事柄を講釋する上に和漢の歷史から例を擧げて其の外善行のあつた人の例を說いて貰つたら生徒の心に感ずる事が深かくして大いに利益あるべしと賴んでそういふ樣に先生もすると言ふので三四年やつて居たから其れから後今の所はどうなつたか知れんが併し斯く年數が短かくして直ちに其の功が分かるものではない。（未完）

"Many shall run to and fro, and knowledge shall be increased." Surely the plain rule is, let each considerate person have his way, and see what it will lead to."

Carlyle.

● 叢話

○何事をか爲せ　　クレーク夫人 述

去る十月二十二日倫敦發の電報を以てクレーク夫人死去の旨を報じ來れり、抑も同夫人は一千八百二十六年英國に生れ今年六十二歳なるが初めの名をヂアナ、マリア、ミウロックと云ひ有名の小說家たり左ればザ、チキルビース。ザ、ヘッド、チフ、ザ、フハミリー。エ、ライフ、ホー、エ、ライフ。ツー、マーリエージエス。等何れも世に知られたる著作あるが中にも彼のジヨン、ハリハックス、ゼントルマンと云へる小說は今に至る迄人々が愛玩して措かざる所の名著なり。然るに此外同夫人がリントン夫人の意見に答ふるの意を以て一女子の婦人論と云へる論案を作り世に公にせられたるが蓋し多くある中に就て尤よく同夫人の意見を確示するものと云ふべきならん、依りて今ま其書中の一節を抄譯し夫人を弔するの辭に代ふと云ふ

玆に何事をか爲せと題して少さか考ふる所を述ぶるに當り先づ斷り置くべき一事は下の議論元來すでに妻と爲れる方々に對して申すものにあらずとの義なり蓋し此方々は其一身に就ても亦た其の介抱せらるべき人々に就ても思案を煩はすべき箇條甚だ多きとなれば今亦更めて何事をか爲せと忠告すべき理由もあらざると也、蓋し此の方々は善きにつけ惡しきにつけ既に其御鬮を引き女子が到底嘗め試むべき運命に出遭はれたる後なれば固より慰めもあるべく心配もあるべく義務責任も數多かるべしと雖も必竟自ら此等を慮りて其宜しき都合を計らるゝの外致し方あるまじきものなり、吾々が玆に少さか考ふる所あらんとするは即はち斯る運命既定の方々にはあらで彼の世間に數限りもなく存在せる上に經濟學者の言ふ所によれば尙ほ年々に增加すると云ふ彼の夫なきの婦人即はち獨り者の女の方々に付ての事なり。

而して此の獨り者の方々も之を分つて二種と爲さゞる可らず第一は年も若く顏ばせも淸く身體も尙ほ壯健にして男子の面々を暫しにても迷はし得べき勢力を有し而も此の暫時の勢力を押延して永遠の交はりをも結び得らるべき樣の資格を有せらるゝ婦人方なり、第二は即はち此等の勢力最早全く消失せ結婚の機會最早殆んどもしくは悉く過去りたるか若しくは自分の好みによつて斯の如き思案を全く度外に置きたるかにより昔しアダム、イーブ、が吾々に先例を遺し置きたる手本に違ひ人間に在るまじき變則の生涯を送るべきようと相成りたる

婦人方あり。

抑も世の開明に趣くに連れて此の獨り者の婦人の多く出來たるは何故なる乎、社會の文明は智德の上に於て婦人の進歩如何と云へるよりトし得べしと云へる所ろ社會の進歩と共に婦人の淸潔なる希望いよ〳〵高まり得て之と共に不淸潔なる希望を衰滅せしむるとは出來がたきもの乎、右樣の問題は之を研窮するにもほと〳〵困難を感ずる所あり、然れど實際此等の不都合を全く療やすとは出來ざるとも切めては少さか之を改むるとは出來がたきにあらざるべしと思はる。(未完)

○爐邊問答 (第一回)

客。承はりますれば御令孃は逐々何處へかお片付遊ばさるゝやの由實事に候や。

主。之は足下にも御相談申たいと存じ居ました處ろ御尋ねにて痛み入りまするが仰せの如く過日來其相談最中にて大概は決定いたしましとて。

客。夫は先づ何よりの事で且つ最早や御決定とあらば別段申上るまでの事も御座いませんが平素御別懇に願ひまする間柄ゆへ先づ一と通り伺ひ置き多少の愚考をも述置たいと存じまするが、一躰先方は何の樣なお方で御座います。

主。大學の卒業生でして文學士と申しましたよ段々調らべて見ますると隨分評判も宜しう御座いますし且つ品行も申分ないようで有ますれば先づ好緣かと存じまするとて。

客。夫は結構の事ではありまするが一躰其方は何して御令孃を御承知なすつたので又た元來あなたもお近附でゝもありますとでせうか。

主。イヱ勿論少しも知りませんとゆへ私方へお出になつたともありませんが過日或る所の集會で娘を初めて御覽なすつたのとで而して段々人々からお聞になり扨て先づあの不調寳ものでも兎や角と評判もありまするとの由でそれゆへ懇望の旨を申込まれましたので御座います。

客。夫は少し私等の持論とは違ひまするから御免下さい一と通り思ふまゝを申しまするど一躰かのお方は漸やく此夏比御卒業なすつた人で云はゞ之より世間の事業に執りかゝらるる所ろあれば成程學文の爲には八九年の御經驗もありませうが世間實際の事に付ては先づ初陣のお方と申さねばならんとて、左樣ならば私が若し御當人でならば今一二年は獨身で自由の身で活潑な運動を爲て扨て多少の經驗も出來僅かとは云へ貯金も出來ました上で婚姻を仕ても遲いとて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はわりますまい、一躰世の中の惡弊は先づ學士や先達から之を改良されねバならん所ろが學校を卒業して辭令書が昨日下たとか何會所へ近日出勤するとか云ふ程の時に早くも嫁を取り濟まして居らるゝ學士や先達の多いのは實に驚き入るとです、此類の人は一家を持つと云つて固より少さかの貯へも無いのみか學校に居つた時からの借金は高利が追く々に積つて月々莫多の出費が掛る所ろ其婚姻の入費も人々ら借り家財道具も借金で買入れると云ふ次第で眞にあきれ果つるとです、夫故あるほど墨塗の車に乘り近來發達した髯を捻り暑くつてもチバーコートを衣目鏡をかけ手袋を穿ち何々學士と稱して出入さるゝ所は立派ですが六十七十の給料は過半利子と返金に遣ひ拂ひ其餘は洋服家具箪笥の類に月々十數圓を費やすとゆへ餘る所ろは中々學士の玄關を張に足ません、然し之も活計向が上手とあれば兎も角當の御主人も細君も一向此やうなとには不慣れで常よりは幾倍の失費もある處ろ、國元の老父母は躮が卒業したから最早樂隱居だと自分極をして追々上京の仕度を爲す妹も當今の時世のとゆへツチラデ修業をさせて呉れあど迫り來たる、かてゝ加へて四季の遣ひ物來客へのおしらひ万事書生で居る時の覺悟では通らず、入費は段々と增して借金は段く々と殖へる、夫故へ新卒業の學士半年にして則ち普通一般の俗物と成下り最早進步の見込もなき落々たる世間尋常の人と同樣にあるとは每々私の實見する所であります、それゆへ今まお話しの方が左程立派の人物であると思ふに付て今から早く家を持たるゝなどとは殘念至極の事と考へるとです○夫にまたあなた可成學文をした程の人が何處く々の集會で初めて會つて人の評判を聞いて決斷した而も御令孃とは一度も懇ろなる談しを仕たとがあいと云ふ、夫れに斯く輕々しく懇望して參ると云ふが少と賴母しからん所で夫是考へ合れしますると何うも評判ほど考への能い人ではわりますまい御令孃をお上あさる程の人物ありとは思れませんよ、一躰あみ大躰のお娘兒ならば成程學士と云ふ丈で早や宜しひでせうが御令孃の如く非尋常に立優られたる方を左樣かろ〲しくお極めあさると云ふとは無ひ筈だと、マア思ふ存分を申しまする と云ふ所ろで然し之は必竟臆測で御座いませうテ。

主。イヤ是は御親切の事で成程其邊には頓と心付ませんでしたが然しあなたも御存知のやうに、どうも娘を持つ親心で

どうか好い所がおればとイツモ思ひまするものゆへ此樣な談しがありまするど之を失なつてはと存じてツイ〳〵飛付ような心持が致しまするが、イエ只今多少心附たともありまして有難う御座います。

客。然し其樣な御心配はあなたの御令孃には御無用の事で私も承たまわつて居りますが學校では餘程お出來なさるそうで教師等も大層末を樂しんで居ると申されまするよ、今ま未だあの學校を御卒業なすつたと云ふでもないに途中で早や一家を切盛する細君に爲さるのは實に蕾を摘取て室に投込むようなお思ひがいたしますよ。

主。然し其邊の所ろは先方で申しまするにもたとへ私方へ來ても學校の卒業までは通學もさせよう又た一躰自分が學文を好むとゆへ喜んで勉強もさせ樣と

客。トサ申すのが一般の事ですが皆な出來た例しは御座いませんよ從來家の脩め方をも承知しない年若な細君ゑ一家を任せて置て其上へ學校の學文をさせると云ふとが一躰出來るとでは無いので少しでも物事を知るものは迚てもソンナ事に迷ふ筈は無いに此の一事にはナゼ皆が分らんかと歎息しますよ、又よし之が出來るとしても未だ學校へ通學させねば成らんと知りつゝナゼ之を早くから妻に仕度と望みませうか、夫程學文がさせたいとならば矢張卒業迄は學校へ入らせて一心に勉強させ其上で結婚しても宜しひでせうに今ま何にも先方で婚姻を急がねば成らぬと云ふ必要もありますまいものを。

主。然し先方でも妻も無い家も無いと云つては人前への信用が無いと云つて之を急ぎまするとでせうか。

客。之はあなた俗物の言ふとで學士先達の申すとでは無いです、學士と云ふ名前や自分の力で人に信用を取れん程の者がどうしませう、此等の弊害こそ此類の人々が卒先して破らんければ爲らん所です、それにあなた御令孃はお幾年でしたッケな。

主。十六年と三ケ月で。

客。それジヤアまだ十七です、十七でなよもそうお急きなさるとは無いです昔しでこそ二十を過てはと申しましたれ今では大抵敎育ある婦人方は二十二三才まで獨りで居られまするのが多いです。且又御令孃は未だ先方の人と爲りをも十分に承知されず双方の合性と云とよはあなたでも未だ御判斷が無いうちに早々お極なさるとは少と輕々しひジヤア

ありませんか。

主。デモ足下別段そう云ふ工夫もありませんとゆへ。

客。あなた等の社會こそ先づ新法を行ふに適する人ですナゼ先方の人を時々お招きなすつて御両親や令孃ともぐ〵に之をもてなしを爲さいませんか而して可成り近己になつて双方の氣性を見拔た上でお極めなさるとは決して六かしひとではありますまい、先程のお話では御令孃に御相談の程も覺束なかつたように思ひますが、、、、

主。イエ勿論言ふても聞かせましたが何分若いもの〵僻でゥジ〵と申す斗り恥かしひが先に立つとゆへ無論ハツキとは返辭もしませんが、夫は先づ私等が察して極めるより致し方のないとで、アハ、

客。茲がまた間違の元です、顔に紅葉を散らしゥジ〵として返辭をしないと、年が行かんとゆへ心では喜んでも左樣言ひ得ないのだなどと自分極をして其積りでイヨ〵嚴しく問はるゝから當人には有無の分別もつかず只だウロ〵として其儘「ハイ」と申すと云ふ次第が多いです、スルトそうであろうそうであろの嬉れしそうなことワイな等と早合點して極めて仕舞と云ふ實以て慨歎の至りです

時に此家の細君入り來りければ暫らく談話をまぎらしたるが熱心なる客人は又もや其舌頭を細君の方へと押向けり

○和畫講義（第二節）　八木兼辰

畫に六つの法あり氣運生動、骨法用筆、應物寫形、隨類傳彩、經營位置、此中氣運生動は以下五つのもの皆備て然して後漸くに至るへし右ぎ六つのものを以て畫の綱禮となす今其骨法用意、應物寫形の一端をいはんに余曩に畫の用は漆器陶器に畫き金石竹木等に彫る事を曰しが茲に肝要なる事は總て物の模樣と畫とは左別せざる可らず然るにまゝ相混ずる者あり模樣に畫を混ずるは宜き者なれども（唐草又は綾錦形の中に花鳥禽獸人物山水等を畫ける者は模樣中に畫を混ずるもの）畫の模樣に混ずるは甚忌むべきゝ模樣は大底骨法用筆なく氣運生動なく畢竟物品の粧飾に外ならさるゝ畫は是に異なり柳緑花紅鶯囀蝶舞の趣を見て忽ち春ののどかなる情を動し枯蘆宿鳫の圖を見て頓に淋しき秋の思を生し戰塲の有樣を見れは英氣を發し地獄の景狀を見れは恐懼を抱くは皆骨法用筆の力と應物寫形の妙とにいづ模樣の効焉ぞこゝに至るべけんや畫に於ては寫形と筆力と少らくも相はなる可らず畫家渡邊華山翁畫の傍ら蘭學に通し嘗て曰ふ凡そ畫は實物に規矩して而後意を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寫すべし然らざれハ動物ハ骨格に疎く花卉ハ精彩に乏し故に余蘭畫に於て力を得たる事頗る多し是翁が他人（畫家粉本とて新古名家の圖を寫し以て模本となすしかれども取次傳寫の間儘誤寫を傳うるあり）により誤を襲する如き弊至て稀なり（東洋繪畫叢誌）余曾て神戸に在て某氏を訪て西洋に送る所の屛風畫幅を見るに衆鳥百花滿面に燦然として殆ど地なきが如し又數幅を掛く其圖位措落欵總て尋常畫幅に異なる事なし余問て曰ふ西洋に輸出する畫ハ大抵先に見る所の如し然るに後の見る所ろのものハ吾國にて愛玩する所ろのものと更に異なる事なし主人笑て曰ふ西洋とても仕入屋もあれハ愛藏家もあり然るに畫家に西洋輸りの畫を囑すれハ皆先の如く畫けり先きのものハ即ち仕入畫にして筆者の勞甚だ多くして其價甚だ卑し後のものハ勞少くして却て直ひ貴し是即ち先のものハ模樣に近く後のものハ十分に意を寫したれハなり余竊かに思ふ媒商の利は却て先に見る所ろの仕入畫に多きか。

● 批評

(49). 手工科教授新論　（中本一册(百十二頁)定價　發兌所東京本町三丁目金港堂）

此書は滿井得次郎辻資親の兩氏が編纂ありたるものにて第一章には手工教授を主張する論者に職業派教育派の二種あることを辨じ第二章に手工教授に行ふべき職業を撰擇し第三章に手工教授の順序方法を說き第四章に工場設置の方法第五章に手工科教員の資格第六章に生徒の年齡及び人員を說き之より第七、八、九、三章に手工の時間工具木材等の事を分說し第十章の結論を以て終り後に商工徒弟講習規則及び共立女子職業學校規則並に本邦に竹の產出多ければとて特に手細工の種類を擧げたり、右十章は主も反譯に成るが如くなれども抄譯編纂宜しきを得且つ附錄親切にして誦すべき所ろ多うし、抑も今の師範學校及び小學校の學科中に手工科を置くべきとは既に官の認定せらるゝ所なりと雖ども之を實施するの場所はなハだ少し吾人は元來普通教育の精神を以て手工教授を賛成し且つ女學の上よりして殊に之が擴張に熱心するものなれば全國の各學校に成るべく廣く此科の教授の行はるゝを希望すると同時に此書の如きものゝ世に出るを尤も喜ぶもの也、但し此書當今さしあたり吾國に實施し得べき手工教授の方法に付ては說明甚だ貧しきが如く覺ゆ之れ一の遺憾なりと雖も吾人は彼の著者等と共に此の方法を討論せんとを希ふもの也。

(50) 西洋女大學　（中本一册(九十八頁)定價四十錢　發兌所　東京通三丁目丸善書店）

此書は英人ラトクリフ夫人のヤング、ウーマンス、コンパニヲンをば片岡のぶ子が譯述ありたるものなり原本は能く行屆きて平易且つ信切なるにより著名の書にて評判高きものなるが本書は其の婦人談話の心得、婦人時間の用ひ方、女子勤勉の事、家政の心得、他人に對する行儀作法など云ふ五章を以て上篇となし此の一卷を先づ出版したるもの也、譯文流暢にして意旨よく分かり普通一般の女流には一讀して益少からざる如く思はる。

● 佳傳

○ナイチンゲール孃の傳

看病の大慈善を以て世に名高きナイチンゲール孃と云へるは西曆一千八百二十年に彼のフローレンスと云へる美なる都に於て誕生したりしかバ扨ては其名を直ちに用ひてフローレンスとは稱されける元來父にて座はせる方の敎導嚴そかなりし

かゝ幼なき比ろより古學繪書音樂の類は云ふに及ハず佛蘭西日耳曼伊太利等の國語まで悉とく學び收めらるゝに至れり左れば孃が文學上の力量一と通りならぬ中にも夙に其心の奥に湧き出でたる愛の思ひは亦混々として彌よ高まり遂に孃を驅つて彼の非常の大慈善をも爲さするに至りけるとぞ。然れど孃をして先づ其心に大ある感動を起させたるは蓋しロンドン、エヂンバラ、を初として所々國々の都を遍歷して其地の病院を視察したる當時の有樣にてあるべし中にも日耳曼のカイセルワルツ病院に至られたる時は看護の摸樣に感を置くと斜めならず遂に三月が程ハ此に留りて種々の取調を爲し之れより本國デルビーサイア(英國の一州)に立歸りて己れも亦た彼の病院にて視察したるほどの事を爲さんと企て百方力を盡されたるとあるが後にハ當時倫敦のハーレー街に存したる看病婦養成所の惣取締りと爲り最早や衰滅に垂んとしたる同所の万事を引〆て悉く之を回復し諸務の整頓敎練の信切など前日と全く反對したる有樣とは爲されたり。

此時孃は三十三歲なりしが其翌年即はち一千八百五十四年と相成りてハ彼の世を聳動したる英露の不和沸騰して遂にクライミアの大戰爭を引起すに至れり此時英軍二万五千人戰地に出張してありしに寒氣烈しく被服足らざるが上に疫癘軍中に流行して看護醫療の手當もとより行屆かざりしかば戰塲に打死するもの丶數はものかハ一朝やまひにかゝつて床に伏するもの千を以て數ふるに至たり慘狀言語に絶する趣むきロンドンに聞へ

たれば一刻も早く之を救ふの策を切要なりとして種々に評議ありたる中にも先づ若干の看護婦を派遣すると第一の急場なりと定まりたり、然るにナイチンゲール孃は之と同時に自から奮つて彼地に出張せんとを申出でられたれば十月二十三日政府よりスクタリー(戰地の病院ある地)看護總督の委任を蒙られたり而して此時孃の志を贊成して之に同行せんとを申出でたる婦人亦十餘人ありたりしかバ直ちに用意して船に乘込み寒風激波を凌いで十一月四日難なく土兒其の都コンスタンチノープルに着す。

斯てスクタリーの病院と云へるに行て見るに狹き場所の内に患者二千三百人打亂れて床に伏せり見る〳〵疾苦して果敢なくなるもあれば僅かのブランデーあらバと思ふの甲斐なくして其儘に引つくるもあり加ふるに在來病院に勤務したる人々は遙々と渡り來りたる孃等を効もなきとと見あなどり小使等に至るまで甚々しく其用を聽くとなければ其が爲に手後れして思ふまゝの取扱の出來ざりしとも多かるべし、然れど孃は少さかも心を屈するとなく同行の婦人等を指揮して先万事の取締を區分しそれ〳〵に受持を定めて各自に無數の患者を擔當せしめ孃は四方を巡廻して手落なきよう看護に心を配られたり。

孃の篤き志は信切の取扱ゐ現れ其懇切の介抱すみ〳〵迄に行渡りければ患者はみな〳〵孃を拜して天の使の如く思ひ做し其影を見るだに既に痛苦を消すに足るとは申し合へり然れば嘗て一人の者の物語りたる言葉に

一人二人は孃の御談しをも聞くべく五人六人は孃の笑顔をも見參らすべし然れど百千の人かく相並んで打伏すとあれば吾等一々孃の御談しを聞くとも出來ず又た其笑顔に接するとも得ならずとハ云へ孃が過ぎ行き玉ふとき其影の我等が上に映らん折吾等は之に接吻しても心を滿足し再び枕に就くとを得候なり」と

又云く

夜暗く人の通りも靜まり數多の醫者看護婦の方々も最早悉く眠に就かれたる時孃が手に燈を提げて巡り玉ふ光のかゝやぐ折吾等の痛苦は其の光を見と共に散じ行くなり」と

孃が信切仁慈によつて療へがたき病より全快したるものも甚だ多かりし折柄孃は遂に惡疫に感じて重き熱病にかゝられぬ此時無數の患者の之を聞くものは定めて其の己れの病を憂ふるよりも倘ほ切に之を疾みたるとなるべし、而して孃が病症

危篤にして一時は殆んど望なきに至りけるが遂に惠に由つて本復し英國に歸られたり。

此時彼の戰爭も既に休みたれば國民が孃の盡力を感謝すると甚だ切にて金二十五万圓斗りを義集して其の志を表するに至りける孃は固く之を辭するも中々に聞入られざるにぞ則はち之をナイチンゲール資金委員なるものゝ手に委ねてセントトーマス病院の内に新に看病婦學校を設立し彼の義集金を以て永遠に慈善看病婦を養成すべき方法を備へられたり。

英國女王ビクトリア陛下は孃が戰地に在る比にも親から書を裁して孃の功績を御賞め下し置かれたるが孃歸國の後は一度之を宮中に召させ玉ひ日比ろ特に愛でさせ玉ふと承はり及ぶ寶石の御飾を下し賜はりしなんど孃の一身に取り此上なき榮譽と申すべきなり聞く此の御飾にはプリンスコンヅルト（陛下の夫にて居ませし御方なり）が自筆にて認め玉ひたる「慈悲あるものは幸あり」との數字を彫りつけありとかや左れば孃が之を頂きて身の飾りと爲さんに天下亦た之に過たる表章あらざりしとならん。

此後ち孃は看病の事につきて三四の有益ある書を著はし其の慈善をして亦汎ねく萬國に流布せしめたり即はち一千八百五十七年（三十九歲の折）には病院心得を著し其翌年には著名なる彼の看護心得と云へるを著はし一千八百六十三年（四十四歲の折）には印度滯軍衞生報告中に於て數多の利益ある心得を世に公にせられ一千八百七十三年（五十四歲の折）には或問答と云へるを著はされたり。

孃は當年六十八歲にして今尙ほ恙がなく所々の慈善事業に一と方ならぬ助けを與へらるゝと承はる孃かつて云へらく

凡そ婦人たらんものは何時かは人の病を看するとの必らず之れあるものなれば扨ては何等の婦人も一度は皆悉く看病婦となるべきものなり。

と實に然り然れども其夫もしくは子の病を看護するは何如ようの婦人にも爲し得べきとなり孃の如く數千里の暴海を横ぎつて戰場に數多の兵士を看し亦た莫大の金を抛つて公けの養成所を設けらるゝなんど眞に看護の大なるものにして慈善の至れるところとこそ云ふべし某記者孃を評して云く

奢美に包まれ驕富に養はれながら其の習弊を破り出でゝ斷然善行を爲し凡そ眞正の實益ある者の人の地位、年配、階級等に附屬するものにあらずして惣てのイヽブ（女の先祖）の孃が固有すべき性質なるとを世に示し且熱心忍耐及善を

爲さんとするの熱心等に由つて成れる職業はまことに女らしく且つ愛らしくして富めるもの貧しきものも共に爲し得べき仕事あるよしを世に示し得たるの婦人ありと云はゞ余は則ちフローレンスナイチンゲールを以て其人ありと答へ申すべし。

と蓋し孃は能く婦人第一の事業を成し得て而も其女德を完うしたるものあり。

● 寄書

○フロレンツ府の放れ獅子 (Der Löwe in Florenz)

此は名高き獨逸の詩人ベルンハルゲ氏の作なるを妾の門の學女に譯し授けしものなれば運筆の佶倔は尙更に文字の句法も辨まへねば固より玉を瓦と爲しつる罪は免れ難けれど古へ人の云はれし如く文字を以て意を害ふなく只管其意従ふへたれば作者の意にも戻るまじとまわらぬ筆もて飜譯ける

東府飯田町　司馬こう

(1)〔獅子は逃げたり逃去れり、鐵の鎖をふり切りて、人々無暗に手を出して、
己のが命を擲げ出さず、家に隱れてあれかし」と、云ふ聲々は離人の、
耳にも早く入り易く、我後れじと走り入り、戸をは固くぞ閉なせり。

(2)彼方に行きつ此方に戻り、今迄繁き通ひ路も、寂寥深き夜半とも、
如此やと思ひ思われず、跡に殘りし一人の小兒、母の看護の手に遠く、
遊戯に心奪われて、市場に近き井戸側に、さも樂みて居たりけり。

(3)高き二階や三階の、窓より見下ろす人々は、今目の前に慘状なる、
活劇見るは瞬時間、あれよあれよと呼ぶ聲は、耳聒しき程なるも、
彼の兒を援ふうが爲めに、己のが身躰を投げ出し、狂奔出る者そなかりけり。

(4)吠へ聲高く猛獸は、牙を鳴して走り來つ、只一呑と小兒をば、
口に啣へん風情なり、身の毛よだつて見物に、生きたる心地更になし、
援危の人はあらざるか、遲々と猶豫ふとなさず、救ふてたべよ可憐兒を。

(5)此時早く彼時遲く、彼方の家より馳出つる、髪を亂せし婦人あり、
異口同音に諸人は、〔止まれ止れ是れ婦人、小兒のみかは汝まで、
無益に命を損すがや」、云ふ聲耳に入らばこそ、獅子の傍へと近寄れり。

(6)纖弱小腕さしのばし、取戻したる小兒をば、腕に抱へて一散に、
足を早めて馳せ行きぬ、今までありし梟勇さ、うつて變はりて猛獸は、
見向きも爲さす順柔く、女の後を見送りて、感じ入りたる樣子なり。

(7)其場にいたる老若は、母てふものの慈愛には、かく迄强き猛獸も、
敵し兼ぬるの勢力を、保有とをそ悟りけり、小兒つれたる婦女等は、
己のが愛子の爲めなれば、命すつるは容易ぞと、皆打笑みて居けるとなむ。

明治女學校の獻堂式よまれし時女生徒のこゝろよなりてよめる　小中村清矩

はなかつらうへはよほへとまなひすとたてしこゝろはをとめさひけめ

明治女學校の獻堂式をいはひて　仲子

かきりなきをしへの道のいとふかき惠をあふくけふにもあるかな

同　とよ子

をみならかまなひのみちのさかゆつゝ御代の光をそふるけふかな

同　よし子

大み代の名をさへおひてあきらけくまなひところの成そうれしき

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○婚姻媒妁統計　渡邉綱

拜啓益御盛隆奉賀候陳ば此結婚媒妁統計表たる年々に依賴人增加する内に其依賴人の族籍と種類とを異にし且世間の不景氣の時と又融通の宜敷時とに依て依賴人の種類增減す故に此嫁聟吳方貰方の依賴人增減に由て世の中の不融通と融通宜敷時とをトするに足る且年々に士族も平民も嫁聟吳方貰方共に結婚媒妁所に依賴するは敢て耻る所なきのみならず反て便利捷徑なるとを覺知し國人の知識の進歩を見るに足る故に國人の爲に有之候間貴社雜誌もし餘白の御座候節も有之候はゞ雜報へ御記載被下度候樣偏に奉願候也

東京日本橋區檜物町一番地住居渡邉綱醫を以て開業せし爰に三十有五ヶ年治療の盛なる節は診察する所の患者日々百有餘名に至り且門弟も大小藩醫及町村醫共に千餘人に及ぶ依て思ふに此數千万人の患者の疾病を治療するも是全く人民の爲人民の爲は所謂國の爲なり然らば人民の爲國の爲になす業なれば何業にてもなすの素志に付結婚媒妁の世話も古昔の弊風を除き虛構空言なく眞實誠心を旨とし嫁聟吳方貰方共に一ヶ年間に數千人を媒妁し一家和合し偕樂せしめば是則ち人民の爲國の爲なるべし又世の不景氣なる時は娘の吳方不足にして小兒の吳方と妻を娶る方多し而して世の少しく融通宜敷ときは前に反して娘の吳方多く小兒の吳方少くして妻の貰方も幾分か不足なり故に此の吳方貰方の多少により以て世の中の盛衰をトするに足る故に明治十六年より本年に至る迄の嫁聟及小兒の吳方貰方の統計表を調製し以て世の盛衰と人民知識の程度とを我か三千八百万人の同胞に廣告して結婚媒妁所の國人に便益なるとを知らせんと欲するなり

明治十六年中に媒妁取扱せし人員三百〇五人内結緣整し分五十人なり此年は士族の妻を娶る方多くして娘の吳方少き故に媒妁の際大に困難致し而町人は甚僅少にして當結緣整ひし分も少數なり

一嫁吳方九十人　内　華族二人　一嫁貰方百四十五人　内　士族百人
一聟吳方廿九人　士族九十人　一聟貰方十五人　平民六十五人
一小兒吳方廿一人　平民四十八人　一小兒貰方五人

明治十七年中に媒妁取扱せし人員三百六十五人内結婚整し分七十人なり此年は前年に比すれば漸く平民の依賴人相增し然れとも官員と商法家と比較して未た官員多くして商法家少きを知る

一嫁吳方百人　内　華族三人　一嫁貰方百四十三人　内　士族百〇一人
一聟吳方五十三人　士族八十四人　一聟貰方十八人　平民八十一人
一小兒吳方四十一人　平民九十六人　一小兒貰方十人

明治十八年中に媒妁取扱せし人員五百八十三人内結緣整ひし分八十人なり此年は町方商法家も結婚媒妁所の便利にして是に依賴して耻る所なきを知る處あるを見るべし故に依賴人士族平民同數なり

一嫁吳方百九十八人内　華族四人　一嫁貰方二百六十七人　内　士族百四十三人
一聟吳方六十人　士族百四十六人　一聟貰方廿人　内　平民百五十人
一小兒吳方四十人　平民百四十人　一小兒貰方六人　平民百五十人

明治十九年中に媒妁取扱せし人員六百廿人内結緣整ひし分百人なり此年は士族の依賴よりは平民多くして當町方商法家と雖媒妁所へ娘を吳るの依賴するは便利にして敢て耻る所なきを發知する所あるを知るべし

一嫁吳方貳百卅八人　華族三人　一嫁貰方二百六十人　内士族百四十人
一聟吳方六十人　内　士族百四十人　一聟貰方三十人　内平民百七十人
一小兒吳方廿五人　平民百六十人　一小兒貰方七人

右四ヶ年間に媒妁取扱せし人員總數千八百七十三人内華族十二人士族九百四十四人平民九百十七人此内結緣整ひし分三百餘なり

明治廿年は未だ終結に至らずと雖も前々年より吳方貰方共に增加し且平民商法家も追々增加し近月は先年中と反して娘の吳方多數にして妻を娶る方少きを知る是全く人知も稍々進み媒妁所の便利なるを感覺せしによるを知るべし

● 新報

○八王子女工場の新設　今回神奈川縣下八王子驛の有志者中助川某外數名の發起にて同驛八日町四丁目五拾四番地へ西洋編物裁縫教授場を新設し橫濱貴員學校に乞ふて佛國女教師ダマン氏外一名を聘し去る十五日開場編物刺繡裁縫の三科を教授すると云ふ

○師範學校の女子部　新潟尋常學校は來廿一年度より廢せらるゝに付き其校舍跡へ新潟縣尋常師範學校の女子部を引移さるゝ筈にて已に同校長長倉雄平氏は教員と共に校内を檢分されし趣なり

○私立女學校　京都府下上京御幸町二條下る私立女學校は今度教授方に改良を加へ洋服裁縫の如き速成を主とし又英學も高等科を設くる等目下計畫中なりと

○女子教育奬勵會　兼て帝國大學の教官及び雇外國人等の企てにて設けある女子教育奬勵會を擴張し歐米諸國の貴婦人と同等の教化を受けしめんものとにて伊藤總理大臣も之を贊成し澁澤榮一岩崎彌之助の兩氏に相談ありしに孰れも同意にて去る五日銀行集會所に集會せし人々は三條內大臣土方宮內大臣辻文部次官渡邊大學總長大鳥學習院長金子齋藤の兩秘書官を初じめ澁澤榮一岩崎彌之助富田鐵之助西村虎四郎大倉喜八郎原六郎小田小一郎氏等三十餘にして決議の要領は資本金拾萬圓と定め之を四百株に分ち一株を二百五十圓として官民の有志者にて各半額を引受け殘ろく株主を募るとし特に株主たるものにして女子ある時は生徒定員の外に入學せしむるを得る等の便法を設け又校舍は凡そ寄宿生を二十五名とし通學生を百名位ひとし寄宿舍の組織は起臥飮食より裁縫庖厨に至るまで其部類を分ち日常の有樣は西洋の貴婦にも恥ぢざる樣整備せしむるとし又差し向き校舍は赤坂の雲州邸內の建物を借り受け追て華族女學校の移轉するを待つて其跡を引受くるとにすべし等の事にて事務員には土方宮內大臣澁澤榮一外數氏當撰せりと

○華族女學校　同校にては去る十三日開校第二紀念式を執行し午前九時三十分校長以下御影を拜し夫れより校長は皇后宮の令旨を奉讀し畢りて生徒一同へ菓子を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

娶したるよし

○裁縫女學校　京都區山城町四番地の婦人洋服裁縫女學校は追々盛大に進み此度喜多見倫子眞名綾子の兩氏を聘し生徒も募集さるゝと云ふ

○愛媛縣女學校開設　愛媛縣松山女學校は二宮邦二郎の私設にかゝり初め同所出淵町に設置せしも生徒增加し教場狹隘となりしを以て今度舊愛媛縣第一中學校舍に移轉して其規模を擴張し去る五日更に開校式を舉行せり當時來會せしものは同縣知事同夫人同縣兩書記官土屋郡長師範學校長松山營所將校學務課員松山滯在の小學校長及び諸會社役員生徒の父兄等貳百餘名なり（十一月十四日官報）

○女學講談會　三重縣私立教員會にては女學講談會と云ふを起し學科を育兒談、衛生談、家政談、物理談、交際談、修身談となし通券を二錢として其費用に充て毎月二回宛開設する由

○陸軍人結婚規則の改定　澳國政府は此程陸軍人の結婚規則を改定發布せり新規則中最も著しき事項を摘記せんに參謀本部に勤務せる中佐以下の將校中有妻者の員數は總勤務將校の半數迄、步兵、騎兵、砲兵、工兵等諸科の軍隊及衛生隊並に輜重隊に於ては同總數の四分の一迄、爾他陸軍部内の聯隊等に於ては同總數の半數迄とし且つ新に結婚せんと欲する者は其官等に應して一定の私有財產の所得高を有する者にあらされは結婚を聞屆けさることせり即ち參謀本部勤務の大佐、中佐、少佐は所得高各千馬同大尉は千二百馬爾他の現役將校中大佐、中佐、少佐は各八百馬同大尉、中尉、少尉は各千馬つゝにして特に三十歲未滿の者は總て前記の歲入額に五割以上に所得高を有する者にあらされは許可せさることに一定せり（本年八月九日露國兵事新聞）（本年十月廿一日官報）

○第三回濱松婦人交際會　同會は明十二日頃遠州濱松に於て開會する由是迄は男子が萬事を周旋せしが今度よりは一切婦人許りにて男子は一人も加へずとの事なり

○京都婦人慈善會　去る五日京都倶樂部に於て開きし同會には同府師範學校教諭渡邊益作氏がキンストライキ生理作用の大体を演說せし由

○大津婦人慈善會　屢々本誌に記載する同會は去月三十日創立委員の集會を開き會則中不都合の個條に修正を加へしが其の重もなる條項は當初義捐金使用の目的は專ら貧院救助の一點にありしを今回委員會の決議にては第一赤貧の病者を施療する事、第二水火災其他天變地異の難に遇ひ目前の生活に苦しむ者を救護する事、第三感化院、育兒院、盲啞院等其他慈善惠院の費用を補助する事、第四赤貧者授產の事、第五鰥寡孤獨癈疾不具等其他事情に依り飢餓に迫るものを一時救助することを目的とし役員に於て時宜の緩急に應し適時施行することゝ爲したる由また同會の開會式は追々延引せしが愈來る第三日曜日（二十日）に舉行する都合なりと又同會の賛成員は男子に限る事とし女會員と同額の出金をなさしむることになりたりと云ふ

○藤岡婦人會　群馬縣の藤岡婦人會は去月廿八日同地高山養蠶傳習所に於て開會し通信女學の輪講、毛糸の編物等をなし最後に茂木氏の談話及び唱歌練習等ありて散會したり

○梅花女學校　大坂西區土佐堀裏町の同校は豫て校舍新築中なりしが今度愈々工事竣成せしに付去る五日其開校式を執行したり

○女子部の移轉　新潟醫學校は來二十一年度より廢校する由に付其校舍跡へは新潟縣尋常師範學校の女子部が引移つる由

○貴婦人法話會　今度東上せし大谷派本願寺の新門跡は去る四日是迄淺草本願寺に於て施行し來りたる貴婦人法話會を自身に施行したり來會者は三條、岩倉の兩公爵夫人を始め其他貴顯紳士の夫人令孃等百餘名の傍聽にて同門跡の說教畢りし後渥美契緣、小栗栖香頂の兩氏も一場の說教をなしたり

○洋服裁縫教授所　江州栗太郡今宿村の山本庄左衛門氏ハ京都彥根の兩地より洋服裁縫教師數名を招聘し同地に右の教授所を設くる由にて已に受業の申込をなしたるもの三十名餘に及びたりと僻遠の地已に此擧あり洋服の流行する推て知るへきなり

●海外女事

○太田稻造氏來柬　（上略）當ても申上候やも不知候へどもワシントンに萬國婦人職業同盟なるもの有之每週ワイキングウーマン（工女）と云へる四頁の雜誌を發兌いたし候が其持主はチヤーロッテスミス夫人に候小生同夫人を訪ひ候處年齡四十二位にて雄辯驚くべく談話は恰かも演說の如く覺へ候我國の事を鄭重ニ申し且つ日本女子の地位を進ることに付ても彼是と議論有之候ひき同夫人は即はち此の同盟の會長ニて工女仲間には有名の人に候。君は彼のニウヨークトリビウンに載せたるヘレンカムプベルの貧因人と云へる論文を御覽ありしや只た今は一冊にまとめ二十五錢にて發賣候がニウヨーク府內工女の狀況を寫す頁に恐ろしき事數多あれども皆な實事なり河瀨君より一冊呈送あるべき筈なり。二週前ロンドンタイムスの紙上に下婢の事に付き面白き議論相見へ候御存知の如く合衆國にては此事當今の大問題なるが英國にても亦追々と其方に傾き候彼の有名の小說家ワルターベサント氏の如きは此作に付き何か研究最中と聞へ候。彼の印度の女ラムバイと云へるは當今英國チエルテンハム女大學にて梵語の教授に候が合衆國に在ると殆んど一年此頃印度夫人の事に付て一書を著したるが文章甚だ立派なり小生一回之と面會したるが只だ二十八才の寡婦なりと承はる當時印度に學校設立の爲め資本金募集に盡力中なり。又同夫人の友人ジョシー夫人と云へるは去年フロラデルフヒアの醫學校を立派に卒業したる人なるが今年二月に死したり云云

○女の記者　ウード夫人と云へるが此頃調査したる所によれば米國ロバートンブロザース書店より發兌したる書籍の著者一百二十五人の內七十七人は女なり、其外チツクノル書店より發兌したる書籍の著者に五十五人の女記者あり、ホートン書店よりは同樣八十人の女あり、メソヂストブツクコンサン書店よりは同樣八十人ありと女文人の數夥しきものと云ふべきなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

生徒募集廣告

本校教員増員致し候に付き寄宿生拾名通學生三十名を募集す

明治二十年十一月

京橋區山城町四番地

婦人洋服裁縫女學校

校長 平島喜平
幹事 喜多見倫子
全 貫名綾子

●基督教新聞

明治二十年十一月十六日
第貳百貳十五號目次

●世事評論○第五十六號勅令、總理大臣の巡航、英國近狀略評●基督教新聞○纏を揔すこと勿れ●教報●論說○聖書の言と不言(承前)●傳記○博愛偉績ウィルバーフォースの傳(第十回)●雜錄○故鄕の父、ハリソンも亦祝杯を固辭す●小兒の話○優しき小兒、造酒家の謎●寄書○一致組合兩教會の聯合を促す●雜報○時事要件●廣告

毎週一回發兌一冊三錢府外郵税一錢

發行所 東京京橋區日吉町廿番地
基督教新聞 六合雜誌 警醒社

改●良 成立學舍 女子部講義錄

第九號十一月十●日發兌毎月二回

目次●家政學(爪生寅)和文學(鈴木弘恭)心理學(井上圓了)生理學(二宮誠三郎)育兒法(宮本仲)賢女傳(坪内雄藏)日本國勢學(宇川盛三郎)近世禮式、文苑、貴婦人令孃は何が故に成立學舍女子部講義錄を讀む歟(高田早苗)理學問答、雜報●(英語)讀本續き、會話、文法、

●舍外生望の者は東京駿河臺成立學舍女子部に申込あれ入舍金廿錢、月謝廿錢 賣捌所本郷四丁目哲學書院

●女學雜誌社出版書目

つれづれ草講義

○鈴木弘恭君講述○山村亮作君筆記

定價十二錢 郵税四錢 第一號

右は鈴木弘恭君の講義ありたるを山村君の筆記せられたるものにして其解釋の綿密なる一本を机上に備ふる時は五里の霧中を出でゝ霽晴朗々たるの天色を見る心地す四方の貴孃諸子請ふ續々購讀あらん事を

婚姻論

○統計局次長世良太一君序○統計協會議員呉文聰君序
○通今居士 横山雅男君著
○定價一冊三十五錢郵便税十四錢

右は横山君が得意の統計學上より婚姻の定義其外早婚晩婚雜婚離婚などすべて婚姻に關係する事物は擧げて殘す所なく議論の確實なる擧例の精密なる世の父母たるもの亦た青年の男女の方々必讀の書なり

束髮案内

○田口卯吉君 結髮沿革附錄○和崎義路君校○巖本善治君跋
○渡邊鼎君著

美製小本八十頁細圖入
定價十五錢郵税四錢也

當今束髮流行の折柄其結び方不案内の婦人少からず此書は日本婦人に適する束髮二十餘種の結び方を丁寧に教へ一々細圖を附して親切に案内すれば何如なる僻遠の地に在りて束髮の風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論文束髮會の規則其外をも添へたれば結髮改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

巖本善治篇

●木村鐙子小傳

定價十錢 郵税六錢

右は明治女學校生徒の爲め編輯し朋友知已に博く配分したるものなるがなほ殘餘あるを以て之を有志の人に頒つ書中勝海舟伯の題辭外山正一島田三郎兩君の序あり

東京新橋日吉町八番地

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●善惡之岐　定價九拾錢　繪入美本　新刊

中島湘烟女史著

目次●一、野蠻とも言へ未開とも云へ實に太平の里となるべし二、高島田にやの字の娘五分さかやきに無刀の浪士三、紅潮端なく上る佳人の面四、一樹の名花春動く初五、谿間の清流も繁都の泥水なりしを知らずや六、雙腕の勇餘す所なく滿腹の智還す處なし七、撫松庵のみ能く撫松庵の胸中を知れり八、凝夢情煙春月暗九、誰知一滴愛情水散湧奔波激浪來十、世上の功名灰塵に異ならず十一、錢嚢瘦腹裏飢以て天下の經濟を論ず十二、貧生の慷慨恃むに足らず十三、當路の君子にして袖の下を嫌ふものあらじ十四、雙蝶花に戯れて春情あり十五、歡樂のある處悲愁の伏する處十六、姉妹の談濃かにして春窓の燭微かなり十七、怨もなく怒もなきは交りと愛と共に新なるによる十八、撫松庵が胸邊寒むく吹き送る巖間の風ぞ腥し十九、世難海より深かく人情紙よりも薄すし二十、會離縁あり應報爭ふべからず廿一、優なる哉水聲人事の齷齪を嘲ける廿二、情人の艶話唯閑雲の開くあるのみ廿三、上帝親なく唯善人にくみす廿四、客窓涙あり孝子の情廿五、茲に因ありて茲に果あり廿六、人間の歡樂一塲の夢廿七、墜葉翻て力なく懶禽啼て恨あり廿八、地下の白骨土いまだ冷かならず病窓の美人恨愈多し廿九、開花原是落花風卅、人の死する其の言ふ事や善し●賣捌所○銀座博聞社、原金港堂

發兌　新橋日吉町八番地　女學雜誌社

●新築落成生徒募集廣告

本校漸次隆盛の域に進み從來の校舍非常の狹隘と相成り候に付き今般高燥の地を卜し校舍を新築し既に落成を告ぐ依て新入女生徒二十名の入學を許し且寄宿生三十名を募る精細の規則は附て承知あるべし○規則書御望みの御方は新橋日吉町八番地女學雜誌社へ宛て郵劵二錢送附あれば直ちに發送すべし

東京麹町區飯田町三丁目三十二番地　明治女學校

發兌　十月。四日　九日　十五日　廿六日
十一月。九日　十二日　十三日　廿八日
十一月。五日　十二日　十九日　廿七日
十二月。三日　十日　十七日　廿四日　三十一日

定價　一册。五錢　郵税。一錢（但府内無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告　特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を許する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む
一行（廿七字詰）一回　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町鬨々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新肴町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポードー○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緣町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所

東京京橋區日吉町八番地

本局　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

遞信省認可

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY